※令和４年度以降入学生用

学校番号	３０２４

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	(学)日本史特論	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	山川出版社「詳説日本史」						
副教材等	帝国書院「図説日本史通覧」　啓隆社「新日本史研究ノート応用編」 山川出版社「日本史用語集」						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史を学ぶことが、現代の諸課題に向き合うための力となる。
自国の歴史の変遷を追いかけながら、社会の変化や文化の形成などの課程を学び、その中で得た知見をもちいて、現代社会をよりよいものにしていきましょう。

２　学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせるとともに、課題発見・解決活動を通して、広い視野に立ち、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
（１）世界史的な視野に立ちながら、日本の歴史を国際環境と関係づけながら考察する。
（２）諸資料をもとに歴史事象についての考察を深める。
（３）時代的背景として政治、経済、文化、対外関係など総合的な歴史的思考力を身につける。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	日本の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	日本の歴史形成の過程を学ぶことで、社会の形成や課題発生、課題解決について考えを深め、自分の意見を持つことができている。	日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する公民としての責務を果たそうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第1章日本文化のあけぼの	第1節　文化の始まり ①氷河期にアジア大陸から現在の日本列島に人類が渡ってきて、その後渡来した人びとなどと混血をくり返し日本人が形成されたことを考察する。 ②遺跡・遺物など考古学上の知見をもとに、旧石器文化から縄文文化の時代の人びとの暮らしを考察する。	a：日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変化を、自然環境の変化や大陸からの影響に着目して理解している。 b:遺物や遺構など考古学上の知見から、旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。 c：黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化・縄文文化の特色を明らかにしようとしている。	定期考査	定期考査 授業内課題	授業内ワーク 提出課題
		第2節　農耕の開始 ①中国大陸から農耕とそれを支える文化要素が渡来し、日本に本格的な農耕文化が形成されたことを考察する。 ②農耕の発展によって私有財産と身分の差が生まれ、集落間の対立抗争からより広域を支配する権力が形成されたことを、遺跡・遺物の発掘や中国の文献から考察する。 ③狩猟社会から農耕社会への変化に着目して、時代を通観する問いを表現する。	a：水稲耕作や金属器の伝来が日本列島の社会に与えた影響を理解し、発掘調査成果から得られる情報を収集して読み取る技能を身につけている。 b：「クニ」の形成から邪馬台国などの小国の連合について、遺跡・遺物や「魏志」倭人伝などの文献資料から多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。 c：日本列島における農耕社会の特色とともに、国家形成につながる社会の変化について考察することを通じて、弥生文化の特色を明らかにしようとしている。	定期考査	定期考査 授業内課題	授業内ワーク 提出課題

※令和４年度以降入学生用

	第2章　古墳とヤマト政権	第1節　古墳文化の展開 ①ヤマト政権の成立と発展、中国大陸･朝鮮半島との関係について、各種金石文や文献から考察する。 ②古墳文化の特徴を前期･中期･後期のそれぞれについて考察するとともに、その時代の様子を古墳文化のさまざまな要素から考察する。 ③古墳時代の人びとの生活や信仰、渡来人のもたらした文化について考察する。	a：中国大陸･朝鮮半島との関係に着目し、渡来人のもたらしたものが現在の日本文化の基層にあることを理解している。 b：諸資料を収集して分析し、ヤマト政権の発展や古墳文化の特色について、多面的・多角的に考察し、表現している。 c：中国大陸･朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成と連合について考察することを通じ、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。	定期考査	定期考査 授業内課題	授業内ワーク 提出課題
		第2節　飛鳥の朝廷 ①ヤマト政権の権力争いや大陸文化との関係の変化に着目し、推古朝の政治や外交について考察する。 ②飛鳥文化には中国大陸･朝鮮半島との交流の影響がみられることを理解する。	a：推古朝の政治や飛鳥文化の特色について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して理解している。 b：仏教の受容や遣隋使･遣唐使の派遣などの大陸との交流について、諸資料をもとに考察した結果を、根拠を示して表現している。 c：中国大陸･朝鮮半島との関係などに着目して、推古朝の政治や飛鳥文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 授業内課題	授業内ワーク 提出課題

※令和４年度以降入学生用

	第3章　律令国家の形成	第1節　律令国家への道 ①大化の改新や律令国家が成立するまでの政治過程について、東アジアの変動を踏まえて考察する。 ②律令国家の仕組みや、律令制が日本の歴史に与えた影響について理解する。	a：隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響や、律令制の形成を中心に大化の改新以降の政治過程を理解している。 b：律令体制について、政治や地方の動向なども踏まえて多角的に考察し、表現している。 c：隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。	定期考査	定期考査 授業内課題	授業内ワーク 提出課題
		第2節　平城京の時代 ①日本と東アジアとの関係について、使節や留学生・僧の往来に着目して考察する。 ②奈良時代の政治の流れを理解し、その背景について考察する。	a：平城京における律令体制の整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなどに着目して理解している。 b：文献資料をもとに、諸勢力の対立と土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。 c：平城京における政治史の流れに着目して、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 授業内課題	授業内ワーク 提出課題
		第3節　律令国家の文化 ①律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 ②律令国家の繁栄を背景に成立した天平文化について、国家鎮護を目的とした国家仏教や唐の影響を強くうけた美術や絵画の特色に着目して考察する。	a：隋・唐など中国王朝との関係と文化への影響などに着目して、律令体制の形成と密接に関連する仏教文化の特色を理解している。 b：盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。 c：隋・唐などの中国王朝から受容した文化を考察し、政治や社会の動きとのつながりを見出そうとしている。	定期考査	定期考査 授業内課題	授業内ワーク 提出課題

※令和４年度以降入学生用

		第4節　律令国家の変容 ①桓武･嵯峨天皇による律令制度の建て直しと、その後の政治制度の変質について考察する。 ②密教の広まりや、神仏習合などの仏教の日本化が進んだこと、さらに弘仁･貞観文化の特色について考察する。	a：平安初期の政治とその後の律令体制の変容について、蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて理解している。 b：桓武天皇や嵯峨天皇の政策に着目して、律令制の変容について考察し、表現している c：東アジアとの関係の変化や社会の変化を考察することを通じて、文化とのつながりを主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 授業内課題	授業内ワーク 提出課題
後期	第４章　貴族政治の展開	第1節　摂関政治 ①９～10世紀にかけての藤原北家の勢力拡大や、律令制支配の衰退と地方支配の仕組みの変質が中世的な世界を生み出していくことについて考察する。 ②東アジアの変動が、日本の対外関係に与えた影響を考察する。	a：藤原北家の発展過程や地方支配の変化を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。 b：地方支配の変化に着目し、奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特質とその後の展開について考察し、根拠を示して表現している。 c：唐の衰退による東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。	定期考査	定期考査 授業内課題	授業内ワーク 提出課題

※令和４年度以降入学生用

		第2節　国風文化 ①国風文化の成立について、東アジア社会の変動と関連させて考察するとともに、国風文化が日本の伝統文化に与えた影響について考察する。 ②浄土信仰という仏教の新しい動きについて、その社会的な背景とともに考察する。	a：それまで吸収してきた中国文化をふまえて国風文化が形成されたことを理解する。浄土信仰が広まった背景について、諸資料から当時の人びとの心のありようを読み取る技能を身につけている。 b：国風文化の形成について、国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえて考察し、かなの成立などが、後の日本文化におよぼした影響について考察し、表現している。 c：摂関時代の政治の在り方と文化との関係を考察することを通じて、そのつながりを見出そうとしている。	定期考査	定期考査 授業内課題	授業内ワーク 提出課題
		第3節　荘園の発達と武士団の成長 ①寄進地系荘園の成立など土地制度が変化したことについて考察する。 ②棟梁を中心とした大武士団が成立していく過程や、次第に政治的な力を持つようになったことについて考察する。 ③東北地方と蝦夷とよばれる人びとが、律令国家に組み込まれていく経緯と、奥州藤原氏が特産品や交易によって繁栄したことについて考察する。	a：武士団の仕組みや武士の反乱、成長などに着目して、律令体制や地方社会の変容を理解している。 b：土地制度の変化について、史料を読み取りながら考察し、根拠を示して表現している。 c：国司や地方支配の在り方の変化、武士の出現など、地方の諸勢力の成長が政治・社会に与えた影響を明らかにしようとしている。	定期考査	定期考査 授業内課題	授業内ワーク 提出課題

※令和４年度以降入学生用

	第５章　院政と武士の進出	第1節　院政の始まり ①外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 ②院政がどのように成立し、展開したのか、古代から中世への歴史の転換と関連づけて考察する。	a：貴族政治や土地支配の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 b：武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。 c：中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。	定期考査	定期考査 授業内課題	授業内ワーク 提出課題
		第2節　院政と平氏政権 ①院の信任を得て台頭した平氏が、保元・平治の乱を通じて勢力を拡大し、政権を獲得した過程を考察し、また、その政権基盤や特色などについて考察する。 ②院政期に、どのような文化が形成され、広まったかについて考察する。 ③古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。	a：院政期における武士の影響力の拡大や平氏政権の展開、文化が庶民や地方に広まったことなどについて、諸資料から様々な情報を読み取り、武家政権の成立について理解している。 b：武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。 c：古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。	定期考査	定期考査 授業内課題	授業内ワーク 提出課題

※令和４年度以降入学生用

	第６章　武家政権の成立	第1節　鎌倉幕府の成立と展開 ①平氏の滅亡、鎌倉幕府成立の経過や幕府の支配機構、将軍と御家人との主従関係、公武的二元支配構造などについて理解する。 ②北条氏の台頭から、執権政治を確立していく過程について理解する。 ③地頭・荘官として荘園・公領の支配をしつつ、戦時には一族を率いて戦った御家人の生活と御家人による地域支配について土地制度の仕組みを踏まえ考察する。	a：院政期における武士の影響力の拡大や平氏政権の展開、文化が庶民や地方に広まったことなどについて、諸資料から様々な情報を読み取り、武家政権の成立について理解している。 b：武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。 c：古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。	定期考査	定期考査 授業内課題	授業内ワーク 提出課題
		第2節　モンゴル襲来と幕府の衰退 ①モンゴル襲来(元寇)の国際的な背景と、それに対する幕府や朝廷の対応を理解する。 ②モンゴル襲来後の御家人の窮乏と、徳政令発布などの幕府の対応、御家人の反発による幕府政治の動揺を考察する。	a：宋・元などユーラシアとの交流に着目して、モンゴル襲来の国際的な背景や国内政治への影響について理解している。 b：鎌倉時代の農業・商工業の発達による社会の変動や御家人の窮乏について多面的・多角的に考察し、表現している。 c：宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 授業内課題	授業内ワーク 提出課題

※令和４年度以降入学生用

		第3節　鎌倉文化 ①武家政権成立期の文化の特色を、国際関係を踏まえて考察する。 ②時代の要請にこたえた新しい仏教の成立や、それに刺激を受けた旧仏教の改革の動きなど宗教界の動向を踏まえ、建築・彫刻などの芸術の分野や文学にも、時代の変化に対応した新しい傾向がみられるようになったことを理解する。	a：公武関係の変化やユーラシアとの交流と文化への影響に着目し、鎌倉時代の宗教や文化の特徴について、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。 b：宋・元との交流の窓口や貿易の担い手などを視野に入れて、ユーラシアとの交流と文化への影響を多面的・多角的に考察し、表現している。 c：武家政権成立期の宗教や文化にみられる特色を、平安時代と比較しながら主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 授業内課題	授業内ワーク 提出課題

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度